

平成27年度情報専門部活動報告～Google Apps を活用した取り組み～

1. はじめに

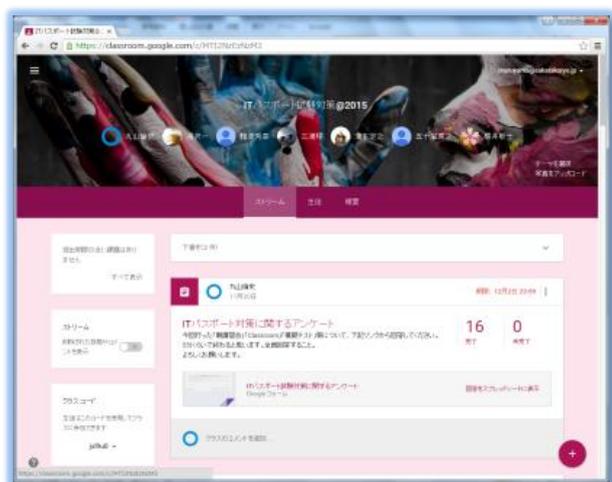
Google Apps for Education (以下、Google Apps) は、Gmail や Google ドキュメント、Google Classroom (以下、Classroom) など Google 社が提供するクラウドシステムを活用した、オフィスソフトウェアスイートサービスである。

情報専門部では、Google Apps を学校で具体的にどのように活用できるかを研究した。指導の実際、効果の検証について報告する。

2. Google Apps を用いた取り組み

Google Apps を活用するには、自宅においてインターネット環境が必要になる。自宅に PC・ネット環境が整備されていない生徒に対しては、Chrome Book やモバイル Wi-Fi を貸出し、自宅でも取り組める環境を整えた。

Classroom を利用した例として、酒田光陵情報科では「IT パスポート」の資格取得に取り組んでいる。10月に受験した2年次生16名に対して、家庭学習の習慣化のきっかけ作りや、登下校時の電車等に乘車している時間などの「すきま時間」を利用することを目的として Classroom を活用した試験対策に取り組んだ。具体的な取り組みは、主に下記3点である。



画像1 Classroom 画面

- ① 講習会後に使用テキストと解答を共有
- ② 試験対策に関するスケジュールを共有
- ③ 習熟度確認のため CBT 方式模擬試験を実施

これらは、Google Apps 導入以前には取り組むことが難しい内容である。

3. 効果検証と今後の課題

IT パスポート試験対策を受講した16名に対して、Classroom を利用した試験対策の効果を検証することを目的にアンケート調査を実施した。

講習用テキストの共有利用状況は、16名中11名が利用し、利用したすべての生徒が資格取得のための試験対策に「役に立った」「やや役に立った」と回答した。また、役に立った理由として、「わからない分野について理解が深まった」「勉強時間が確保できた」「取り組んだ内容と似た問題が本番で出題された」等の回答が多く見受けられた。また、CBT方式の模擬試験については、16名中15名が利用し、利用したすべての生徒が学力向上や試験対策に「役に立った」「やや役に立った」と回答した。



画像2 取り組みの様子

また、役に立った理由として、「自分の弱点や苦手な分野が明確になった」「返却される結果シートがよかった」「CBT方式の練習になった」等の回答が多く見受けられた。試験の結果は16名中6名が合格し、目的の一つである「学習のきっかけ作り」に関しては概ね達成できたと考えられる。しかし、「すきま時間の利用」については「講習会テキストの共有」程度の実施のみにとどまり、Classroom を活かせるコンテンツを準備する必要がある。引き続き Google Apps を活用した新しい学習環境による学習効果について検証していきたい。